

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	5. 竹田総合病院におけるクロザピン血中濃度測定の結果と考察 (第34回福島県精神医学会学術大会抄録)
Author(s)	鈴木, 悠平; 三浦, 至; 野崎, 啓子; 一瀬, 瑞絵; 平田, 祥一郎; 小林, 有里; 矢部, 博興; 星野, 修三; 小園江, 浩一; 渡辺, 研弥; 堀越, 翔
Citation	福島医学雑誌. 73(2): 57-57
Issue Date	2023
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/2176
Rights	© 2023 福島医学会
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-05-02T09:33:27Z

5. 竹田総合病院におけるクロザピン血中濃度測定の結果と考察

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

鈴木 悠平, 三浦 至, 野崎 啓子
一瀬 瑞絵, 平田祥一朗, 小林 有里
矢部 博興

一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院精神科

星野 修三, 小藺江浩一

福島県立医科大学附属病院薬剤部

渡辺 研弥

医療法人すこやか ほりこし心身クリニック

堀越 翔

クロザピンは治療抵抗性統合失調症に対する最も有効な抗精神病薬であるが、顆粒球減少をはじめとした重篤な副作用の問題もあり、諸外国と比較して本邦では使用率が低い。クロザピン投与中の副作用の発現や治療効果にはクロザピンの血中濃度が密接に関係しているという報告が多数あり、本邦でも令和 4 年度よりクロザピンの血中濃度測定が保険収載された。しかし、本邦におけるクロザピン血中濃度測定の普及と副作用との関連についての検討は十分とは言えない。

当講座では高速液体クロマトグラフィーを用いて独自にクロザピン血中濃度測定を行い治療に活用してきた。

今回我々は、2021 年 10 月から 2022 年 9 月の間に竹田総合病院でクロザピン治療を行っていた入院、外来患者 30 名（平均年齢 49.7 歳、男性 21 名、女性 9 名）に対してクロザピンの血中濃度測定を行い、精神症状、副作用との関連について横断的に調査を行なった。

調査の結果、クロザピンの投与量と血中濃度の間には弱い正の相関 ($p=0.045, r=0.367$) を認めたが、投与量と血中濃度の比は患者毎に大きなばらつきがあることが示された。これは、先行研究の結果と一致する。また、母集団を陽性・陰性症状評価尺度（以下 PANSS）の陽性症状の合計得点によって 2 群に分け、血中濃度の平均値を比較すると、PANSS の陽性症状の得点が高値な群で有意にクロザピン血中濃度の平均値が高いことが示された。

副作用に関しては、母集団をクロザピンの血中濃度が高い群と低い群の 2 群に分け、クロザピン専用の副作用評価スケール、(Glasgow Antipsychotic Side effects Scale for Clozapine Japanese version; GASS-CJ) を用いて合計得点を比較したが、2 群間

で有意差は認めなかった。

本発表では上記結果を踏まえ、クロザピン血中濃度測定による薬物モニタリングの臨床的意義を考察する。尚、本研究は本学倫理委員会での承認の下、本人の同意を得て行い、発表に際しては個人情報の保護に配慮した。

6. 本邦におけるクロザピン患者モニタリングサービスを見つめ直す。

～当院のクロザピン導入を検討された治療抵抗性統合失調症の転帰に着目して～

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

細貝 優人, 森 湧平, 泉 竜太
佐藤亜希子, 板垣俊太郎, 三浦 至
矢部 博興

2009 年に上市したクロザピンは治療抵抗性統合失調症の現状最も有効な治療薬であり、難治性患者の地域移行推進のため普及促進が望まれている。本邦におけるその使用はクロザピン患者モニタリングサービス (CPMS) による管理のもと、処方可能な医療従事者、医療機関、保険薬局は CPMS への登録を必須とする。本県における CPMS 登録医療機関は 2021 年 10 月時点で当院を含めた 7 医療機関が登録されており、県北地域唯一の登録機関である当院には新規導入が検討される治療抵抗性統合失調症症例の紹介を多く経験する。しかしながら、本邦におけるクロザピン使用は諸外国と比較して厳格に定められた CPMS 規定により、数か月に亘る入院管理下における導入と最大 4 週間毎の通院と採血が必要であり、導入の敷居が高く、また導入後の患者負担が大きいのが現状である。そのため当院でもクロザピン導入の紹介後に最終的に導入に至らない、もしくは導入後の中断を余儀なくされる症例が存在する。そこで今回我々は、当院における 2018 年 4 月から 2022 年 10 月までのクロザピンの導入目的に紹介された患者の転帰及びクロザピン継続中に中断に至った症例について調査を行い、導入群、未導入群、中断群を分類しそれぞれの臨床的・社会的特徴を検討した。各群より得られた特徴から本邦における CPMS の現状を検討し、加えて諸外国の現状との比較を行うことで、本邦における CPMS のメリット・デメリットについて考察した。

尚、この発表において申告すべき COI はない。また本学倫理委員会の規定に基づき、個人情報に関する守秘義務を遵守し、匿名性の保持に十分な配慮